

関節ファシリテーション学会 四国支部

-四国交流会-

No.3

第 29 回 四国交流会



テーマ「4D 関節内運動学 ～歴史・基礎と臨床応用～」

講師：片岡 寿雄先生（岩倉病院 SJF 学会 愛知支部支部長）

平成 29 年 4 月 22 日（土）～23 日（日）

会場：アスティ徳島

今回は「4DCT で解き明かす関節内運動学」の著者である片岡寿雄先生をお招きしての四国交流会となりました。昨年の SJF 学会愛媛大会のシンポジストに引き続き、今回は講師として再度四国に上陸していただき熱い講義をしてくださいました。

関節内運動における軌道という概念の重要性、矢状面・水平面・前額面上での平面的な運動から脱却することが関節内運動学を治療に活かす第一歩であることを学びました。実技では、股関節の屈曲や外転にも軸回転が必ず伴うこと、頸椎椎間関節、胸椎椎間関節などの軌道を意識した技術により改善を経験することができました。また、軌道に沿って動くように操作する為には骨の止め方が非常に重要であること「止め方ですべてが決まる！」との熱いご指導もいただきました。

締めくくりには関節内運動学の歴史や再生医療の現状、学会でのシンポジウムでも話題になっていました Mechanotransduction の発現している画像を説明していただくなど、治療技術研修のみならず講義内容も非常に興味深い重要なことばかりであり充実した研修会となりました。

片岡先生、本当にありがとうございました。

第 30 回四国交流会



日時：平成 29 年 5 月 27 日（土）・28 日（日）

内容：「基本的動作介助法, SJF 技術, 症例検討」

講師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長, SJF 学会地方理事)

会場：高知県立ふくし交流プラザ 研修室 A

高知県では 1 年半ぶりの開催となりましたが、築山先生をお招きし節目の 30 回目の四国交流会を開催しました。参加者は両日合わせて四国 4 県に加え、岡山、関西を含め総勢 58 名の参加を頂きました。

今回は四国から 1 題、岡山からも築山先生が実際に治療をされた場面を含め症例検討 2 題の発表がありました。症例を通して、少ない医学的情報からも患者の症候に現れている原因を探り、治療への結び付けの流れを学びました。また、築山先生の実際の患者治療では、1 回の治療における患者の変化を通して、改めて理学療法における治療技術のあるべき姿や素晴らしさを感じました。

新年度となり、新人や新入会の参加者もおりましたが、2 日間の研修を通して大いに刺激を受け、これからの臨床に向けても大変勉強になりました。

築山先生はじめ、補助講師の先生方ありがとうございました。

今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

第 31 回 四国交流会



日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）、6 日（日）

内 容：「症例検討」「基本的動作介助法」「SJF 技術」

講 師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長)

会 場：香川労災病院 中央リハビリテーション部

今回、第 31 回四国交流会を香川県で開催しました。四国 4 県、岡山・広島・山口・福井・大阪・兵庫から総勢 75 名の参加をいただき、盛況のうちに終わることができました。

今回は、四国 4 県の先生方より症例発表（腰部脊柱管狭窄症(LCS)、小脳梗塞、変形性股関節症(THA 後)、運動ニューロン病疑い)を、また岡山の先生方から、内側半月板損傷(MMPRT)に関して、半月の構造と運動学、断裂形態、手術法、また症例提示もしていただきました。「構造と手術方法を知らないなら診てはいけない」・・・普段から医学的な知識を十分に持っているのか、非常に反省させられました。また、SJF 技術、歩行を中心とした基本的動作介助法、理学療法技術についても、ご丁寧に指導をいただきました。常に進化する技術・・・少しでも貪欲に吸収し、より効果的に患者を治療できるようになりたいと改めて思いました。

築山先生はじめ、補助講師の先生方、本当にありがとうございました。今後も引き続き、ご指導の程、よろしくお願い致します。

第 32 回 四国交流会



日 時：平成 29 年 11 月 4 日（土）、5 日（日）

内 容：「症例検討」「SJF 技術」

講 師：築山 尚司先生(岡山大学医学部附属病院 総合リハビリテーション部士長)

会 場：香川労災病院 中央リハビリテーション部

落ち葉の散り敷く季節となりました。天候にも恵まれ、香川県で、第 32 回四国交流会を開催しました。四国 4 県、岡山・広島・大阪から総勢 56 名の参加をいただきました。

今回は、4 例の症例検討を行い、大勢の先生方からご意見、ご指導をいただくことができました。患者の主訴や needs、理学所見、社会的背景等の様々な情報から目標を立て、私たちが今出来ることを考え、行うことの大切さを再確認することができました。

SJF 技術では、体幹を中心に、上肢や下肢の技術もご指導いただきました。目を向けるべきポイントを解りやすく、技術者のレベルに応じて熱心に教えていただきました。

補助講師の先生方にも、丁寧にわかりやすくご指導いただきました。とても充実した時間を過ごすことができました。

築山先生をはじめ、補助講師の先生方、本当にありがとうございました。今後も引き続き、ご指導の程、よろしくお願いいたします。

第 33 回四国交流会



日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）・4 日（日）

内容：「脳障害・呼吸障害に必要な検査・測定・治療技術」

講師：吉野 孝広先生（大西脳神経外科病院 医療技術部副部長 SJF 学会本部理事）

場所：アスティ徳島 第 4 会議室

第 33 回四国交流会は、大西脳神経外科病院の医療技術部副部長であり、SJF 学会本部理事の吉野孝広先生をお招きし、「脳障害・呼吸障害に必要な検査・測定・治療技術」というテーマで研修会を行いました。徳島県で開催し、参加者は 30 名でした。

今回、非常に大きく広いテーマでしたが PT・OT に必要な検査・測定項目を余すことなく、講義および実技指導を行っていただきました。講義冒頭から「我々 PT・OT にとって正確な検査・測定は、治療およびその効果判定のために必須である」と改めて気づかされ、臨床で曖昧にしている測定や原因追及のための検査を見直すきっかけとなりました。また、各検査・測定項目において教科書で習う一般的な方法に加え、先生が臨床で培って得た方法や知見をお聞きすることができ、受講生それぞれ新たに得た情報や考えさせられたことが多くあったのではないのでしょうか。

吉野先生を四国交流会にお招きしたのは今回で 2 度目ですが、是非次回も四国の会員により多くの知識と SJF 技術をご指導頂きたいと思えます。2 日間ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第 34 回四国交流会

日時：平成 30 年 4 月 21 日(土)~4 月 22 日(日)

内容：「基本的動作介助法」「SJF 実技」

講師：築山 尚司 先生（岡山大学病院 総合リハビリテーション部 士長）

会場：香川労災病院

風が春から初夏の香りを運んでくる季節、今年度最初となる第 34 回四国交流会が香川県で開催されました。今回は「基本的動作介助法」「SJF 実技」をテーマに四国 4 県のみならず、岡山をはじめ広島、大阪、福井から総勢 56 名の先生にご参加いただきました。

今回は、脳血管障害患者の起き上がり動作・床上移動動作・座位・歩行動作の介助法、上肢・体幹を中心とした SJF 技術をご指導いただきました。SJF 技術については基本に立ち返り自分たちが見落としている点を踏まえて、さらに体幹については今回変更があった点を中心にご指導いただきました。どの受講生の先生方も少しでも技術を習得しようと熱心に取り組まれておられました。また自分自身もついていくので必死だったのですが、築山先生がおっしゃられていた「大変難しい技術であり、一朝一夕で出来る技術ではない。だからこそ継続して続けていくことが大切」という言葉が印象に残りました。自分もこれからも継続して練習し、少しでも上達して患者を治療できるようになりたいと思いました。

築山先生をはじめ、補助講師をして頂きました先生方、本当にありがとうございました。



第 35 回 四国交流会



日 時：平成 30 年 6 月 2 日(土)～6 月 3 日(日)

内 容：「SJF 技術・基本的動作介助法・症例検討」

講 師：築山 尚司先生

(岡山大学病院 総合リハビリテーション部 士長 SJF 学会 地方理事)

会 場：香川労災病院

入梅の候ではありますが、天候にも恵まれながら 35 回四国交流会が香川県で開催されました。今回は SJF 技術・基本的動作介助法・症例検討をテーマに四国 4 県、岡山・大阪から総勢 48 名の先生にご参加いただきました。

今回は SJF 技術をはじめ、立ち上がり・移乗・歩行動作の介助法のご指導をいただきました。SJF 技術では腰仙関節、肋横突関節、肩鎖関節などのご指導をいただきました。その中でも肩鎖関節の治療では肩複合体の可動域が大きく変化し、肩鎖関節の重要性を再認識いたしました。基本的動作介助法においても、介助した後に重心位置がどこにくるのか意識しながら介助しないと上手くできず、日々練習しないと上達しないと思いました。

築山先生をはじめ、補助講師の先生方、誠にありがとうございました。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第 36 回 四国交流会



日 時：平成 30 年 8 月 4 日(土)・5 日(日)

内 容：「SJF 技術・基本的動作介助法・症例検討」

講 師：築山 尚司先生

(岡山大学病院 総合リハビリテーション部 士長 SJF 学会 地方理事)

会 場：香川労災病院

酷暑の気候でしたが、多くの先生方に香川県にお越しいただき第 36 回四国交流会を開催しました。今回も四国 4 県に加え、岡山・大阪と合わせて総勢 51 名の先生にご参加いただきました。

研修会では L5/S1 close us をはじめ C7/Th1 や上位胸椎椎間関節の SJF 技術など盛り沢山でご教授頂きました。特に腰仙関節の治療技術では図示していただいた上で、関節内の動きも分かり易く説明いただき、しっかりとイメージを持って実技練習にも臨むことができました。また、重介助の患者に対しても専門職としてできる動作介助のポイントや、症例検討では医学的な情報など幅広い視点で患者を捉えた上で取り組むべきことをご教授頂きました。

築山先生をはじめ、補助講師の先生方、誠にありがとうございました。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

以上

第37回 四国交流会

日時：平成30年11月3日（土）～11月4日（日）

内容：「SJF技術・基本的動作介助法・症例検討」

講師：築山 尚司先生（岡山大学病院 総合リハビリテーション部 士長、SJF学会 地方理事）

会場：香川労災病院



今回の四国交流会は、四国・岡山支部、さらに広島や関西の先生方にもご参加いただき、2018年を締めくくるにふさわしい勉強会となりました。

研修会1・2日目ともに、患者の実際の治療場面を例に体幹・下肢を中心に関節機能に対する治療技術を指導していただきました。そして、四国交流会のメインテーマである症例検討を行い、動作介助法の実技練習も行いました。四国支部からは3例、岡山支部からは前回の続報を含む2例の提示がありました。会員各々の職場は病院や施設、在宅と多岐にわたり、患者に関わる病期も様々です。また臨床経験も幅広いです。一症例発表に対する Impairment・Disability に関する質問やアドバイス、PT・OTとして関わることのできる範囲などを会員それぞれが各々の立場で意見をし、いつもとは異なる視点で患者を診ることができ、非常に意義ある症例検討になりました。症例検討をしていると、患者の経過や予後を考えているか？ PT・OTとして今すべきことができているか？ それは患者にとって最良であるか？ と常に問われているように感じます。患者を「(Imp.) 治す」「(Dis.) 変える」ことが全てではないですが、PT・OTが自分の役割を果たせば、`変わる` `変えることができる` ということを実感できました。今年も計4回の四国交流会を開催しました。これもひとえに参加して下さる会員の皆様、そして毎回熱く・ワクワクする指導をして下さる築山先生があってこそです。来年は平成に終わりを告げ、新たな元号に変わりますが、今年一年の知識・技術に終わりを告げることなく、2019年に向けてしっかり復習を行い、新年を迎えたいと思います。

第 38 回 四国交流会



日時：平成 31 年 3 月 2 日（土）・3 日（日）

内容：「SJF 技術・基本的動作介助法・症例検討」

講師：築山 尚司先生（岡山大学病院 総合リハビリテーション部士長 SJF 学会地方理事）

会場：香川労災病院

平成 31 年最初の四国交流会でしたが、築山先生の大変お熱いご指導により非常に濃密で刺激的であり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

まず、基本的動作介助法ですが、介助する際に注意することは引くのではなく押すこと。寝返りでは、頭頸部・上肢・下肢からの誘導方法、起立では坐骨から踵への重心の誘導、歩行では体幹が低緊張状態にある患者の介助方法をご指導頂きました。

次に、SJF 技術の最新トピックスである L5/S1 の治療技術（6 方向）ですが、仙骨への当て方、力み過ぎず軽く動かす方が良い結果が出るとアドバイスを頂きました。気持ちが全面的に出てしまい、力任せに動かそうとしてしまうことが多いため、常に意識していかなければと感じました。また、肩の治療手順ですが、治療的検査法に沿って、肩甲窩上腕関節の治療のみでなく、L5/S1、C7/Th1、胸椎椎間関節、肩鎖関節、胸鎖関節の可動性も改善させておくことの重要性を示して頂きました。

症例検討では、感覚障害（表在・深部）のある患者に対する治療の組み立て方について皆で意見を出していきました。一般的に視覚代償が多いですが、弾性包帯による感覚への入力、関節を固定し安定性を高めるなどのアイデアが出ました。

最後に、築山先生の治療技術を目の当たりにして、治療者である PT・OT が、患者を治すことの出来る技術、SJF を身に付けることは責務であり、その重要性を再確認しました。築山先生、補助講師の先生方、参加者の方々、ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

第 39 回 四国交流会

日時：平成 31 年 6 月 22 日（土）・23 日（日）

内容：「SJF 技術・基本的動作介助法」

講師：築山 尚司先生（岡山大学病院 総合リハビリテーション部士長 SJF 学会地方理事）

会場：香川労災病院

築山先生、今回も 2 日間四国交流会に来てくださり、たくさんのご指導を頂きありがとうございました。また補助講師の先生方もご指導ありがとうございました。今回も四肢・体幹の治療技術を中心に、歩行における機能訓練までご指導頂き、あっという間の 2 日間となりました。

まず初めに肩の治療では、肩の ROM 制限において肩鎖関節の治療は非常に重要であることを再認識しました。実際に治療技術を指導して頂き、肩鎖関節の治療のみでここまで ROM の改善が図れることを目の当たりにし、私が普段実施している肩鎖関節に対する治療では不十分であったことを身に染みて感じました。肩の ROM 制限に対して、治療の手順として肩甲窩上腕関節の治療の前に、L/S、肩鎖関節、胸肋関節、胸鎖関節の治療を終えてなければ、治療効果は不十分であることを再度教えて頂きました。

また、股関節屈曲の ROM 改善と、屈曲による股関節前面のインピンジメントに対する治療では、私が臨床においてよく悩む点であり、新たな知見を得ることができ、早速臨床に活かすことができそうです。

今回の研修会に参加することができ、改めて自分の知識の少なさ、治療技術の未熟さを改めて感じることができました。理学療法士免許を取得し、5 年が経過しましたが、人生に例えるとまだ 5 歳であり、これからもっともっと努力し、治療者として成長していかなければならないと感じました。改めてありがとうございました。今後ともご指導よろしくお願い致します。

田岡病院 佐野 万里